

平成 17 年 6 月 13 日

2 号機屋外洞道内における作業員負傷の調査結果について

平成 17 年 3 月 4 日、運転中の 2 号機屋外洞道において、排水ポンプ点検作業を実施していた作業員の両腕に湿疹が出たため、業務車にて病院へ搬送いたしました。また、当該作業に立ち会い、病院に同行した当社社員も右手および両足に違和感を覚えたため、念のため診察を受けたところ、両者とも化学熱傷と診断されました。

洞道内に溜まっていた水を分析した結果、強アルカリ性を示し、ナトリウムイオンが検出されました。

当該洞道内には復水脱塩装置^{*1}の樹脂を再生するための水酸化ナトリウム溶液^{*2}を移送する配管が敷設されており、何らかの理由で配管から漏れ出した可能性があることから、調査することといたしました。

なお、放射性物質による汚染はありません。

(平成 17 年 3 月 5 日お知らせ済み)

調査の結果、タービン建屋壁貫通部(以下、当該貫通部)の配管表面に腐食が認められたため、詳細調査を実施したところ、貫通孔 1 箇所(直径約 0.4 mm)が確認されました。

腐食の原因は、貫通部の止水機能が低下したため、当該洞道内へ浸入した雨水などの影響により、当該貫通部の配管表面の腐食が進行し、貫通に至ったものと推定いたしました。

対策として、当該貫通部の配管は防錆塗装を施した配管に交換するとともに、壁貫通部の雨水浸入防止対策を実施いたしました。今後、類似配管の調査を行い、必要に応じて同様の対策を実施いたします。

また、洞道内の溜まり水に接して作業を実施する場合は、事前に水質確認を行い、災害防止に努めてまいります。

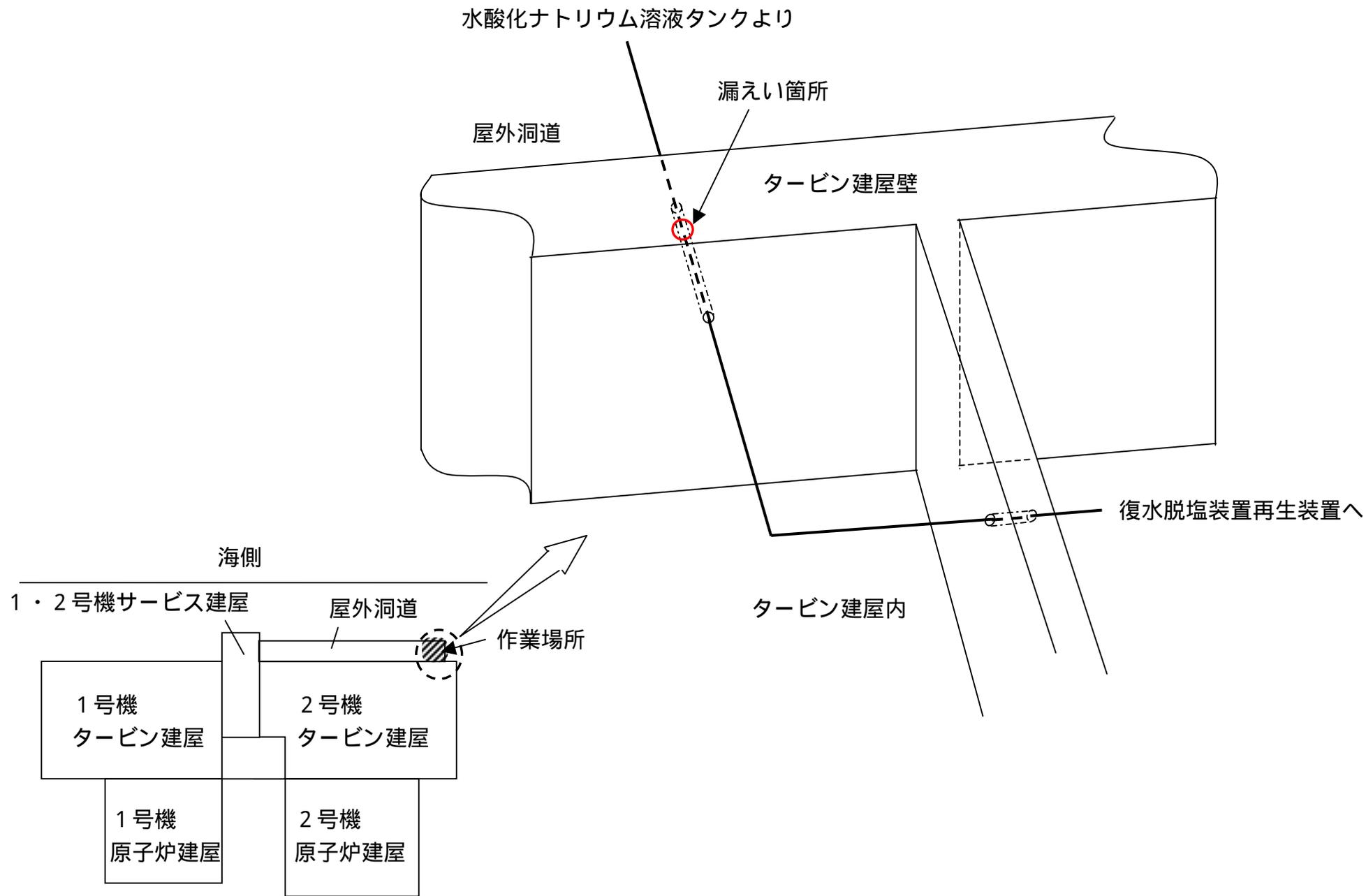
以上

* 1 復水脱塩装置

原子炉給水中の不純物を除去する他、復水に海水が漏れ込んだ場合に塩分を除去する装置。

* 2 水酸化ナトリウム溶液

苛性ソーダともいわれる強いアルカリ性を示す溶液で、発電所においては、復水脱塩装置の樹脂を再生(洗浄)するために使用している。



2号機屋外洞道内における作業員負傷の概要